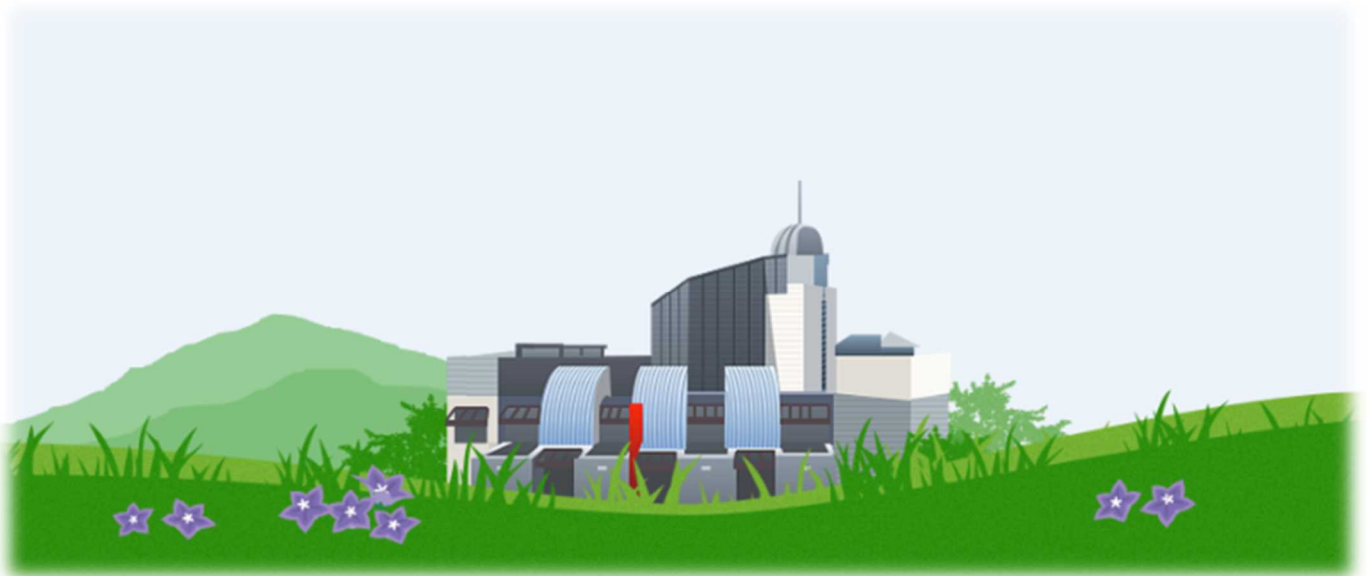


第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針

本との「出会い」で
豊かな心を育てよう！



はじめに

「子どもの読書活動」は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。（「子ども読書活動の推進に関する法律」の基本理念より）

伊勢原市は、充実した読書環境を子どもたちに提供するために、「子ども読書プラン（平成19年1月から22年3月）」、「第1次伊勢原市子ども読書活動推進指針（平成25年4月から30年3月）」を策定し、「本との『出会い』で豊かな心を育てよう！」という基本理念のもと、家庭・地域・学校等の教育機関・行政・図書館のそれぞれの場所で、協働しながら、環境の整備に努めるとともに様々な事業を実施し、読書普及活動に取り組んできました。

「第1次伊勢原市子ども読書活動推進指針」に基づいて、朝読書やブックスタート事業で読書活動の習慣化を図ったことや、年間100回を超える絵本の読み聞かせおはなし会やイベント等を実施できたことは、有効な啓発活動になりました。

さらに、図書館の児童図書コーナーには、まちづくり市民ファンド寄附金を活用して『こみち文庫』を開設し、「第1次伊勢原市子ども読書活動推進指針」に示された「子どもたちが自身の成長にあった本と出会える」ことをコンセプトに書架づくりを行いました。

しかし、読書普及活動を一層推進するためには、協力していただくボランティアへの支援の強化や新たなボランティアの育成、ボランティア同士の連携・交流の推進、そして次世代を担う子どもたちが郷土を身近に感じられる機会の設定や資料の収集・提供を充実することが課題であると感じています。

こうした課題を踏まえて新たな伊勢原市子ども読書活動推進指針を策定し、家庭・地域・学校等の教育機関・行政・図書館との連携をより深めて、伊勢原市全体で子どもへの読書普及を推進していきます。

伊勢原市・伊勢原市教育委員会

も く じ

1	本指針の位置づけ	3 P
2	子ども読書活動の意義	4 P
3	第1次伊勢原市子ども読書活動推進指針 の評価と課題	5 P
4	子ども読書活動推進の体系図	8 P
5	子どもの成長段階に応じた本との出会い	9 P
6	子ども読書活動の推進	11 P

トーフくん



ききょうちゃん



こまたろうくん



【市立図書館のイメージキャラクター】

- トーフくん…伊勢原の名産「大山の豆腐」
- ききょうちゃん…伊勢原市の花「桔梗」
- こまたろうくん…伊勢原の民芸品「大山こま」

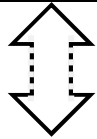
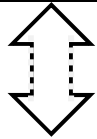
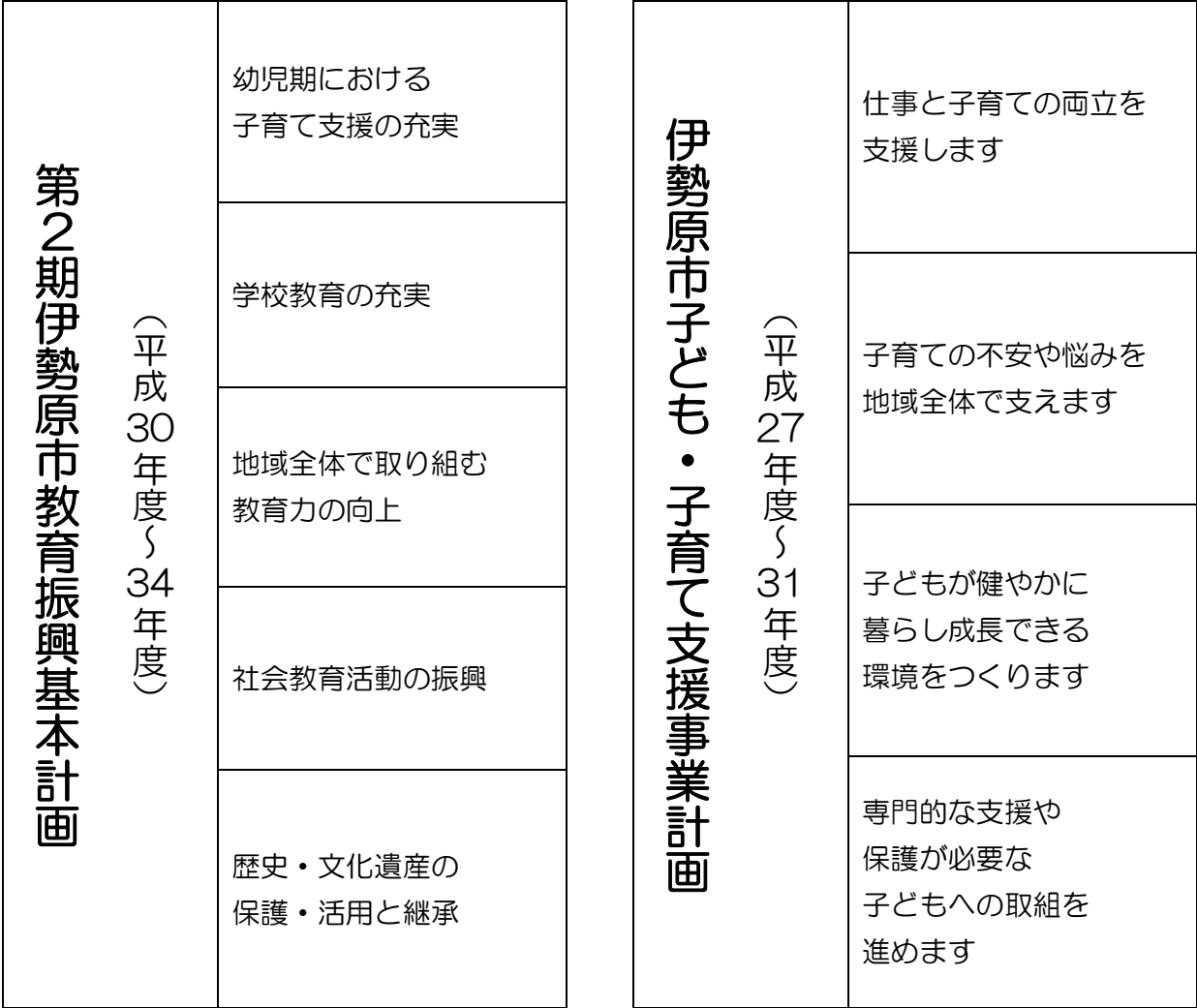
※3人とも子どもと本が大好き！
伊勢原市の読書普及活動で活躍します！
図書館のホームページでも会えるよ！



伊勢原市公式
イメージキャラクター
クルリン

1 本指針の位置づけ

伊勢原市第5次総合計画（平成25年度～平成34年度）
 暮らし力、安心力、活力、都市力、自治力の5つの力を「未来へ届ける力」として位置付け、『しあわせ創造都市いせはら』の実現に向け、相互に連携しながら様々なまちづくりを展開します。



第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針

2 子ども読書活動の意義

子どもの成長に読書がもたらす力は、かけがえのないものであり、未来を担う子どもたちにとって、読書は単なる娯楽や趣味の範囲を超え、人格形成に対しても影響力があります。読書は、子どもの知的好奇心を呼び覚まし、元気で豊かな心を育てる人生への贈りものです。

文部科学省の平成28年度「子ども読書活動の推進等に関する調査研究」によると、本を読むきっかけは、小学生の5割以上が「家族と一緒に本を読んだり図書館や本屋に連れて行ってくれたりすること」であるほか、中学生の4割以上、高校生の5割以上が「本屋での宣伝、広告、テレビや雑誌、新聞、ネット上での宣伝や広告」とあります。本と出会う機会が、子どもを読書好きにするきっかけになり、また、過去に本を多く読んでいた子どもほど、現在の本を読む量が多い傾向も確認されており、小さな頃から読書習慣を身につけておくことが重要です。

近年、スマートフォンを利用する子どもが増えており、平成25年度「国語に対する世論調査」の結果では、電子図書を利用している子どもも約3割に上っています。こうした新しい読書環境が生まれる一方で、子どもの読書量は減少しており、その対策が求められています。

伊勢原市では、子どもたちに良い本との出会いの機会を作り、また、良い読書環境を提供すること等を、子ども読書活動推進の柱ととらえ、取り組みを行っています。

(1) 健やかな心の発育

乳幼児期の子どもの発育には、親子の直接のふれあいが非常に重要です。家庭での絵本の読み聞かせは、親子の心と体の有効なスキンシップの一つであり、子どもの頃に本を読んでもらった経験のある子どもは、他者に対する認識や理解、積極性が高まります。また、就学後の国語力や読書にも影響します。

(2) コミュニケーション能力の向上

言葉は、重要なコミュニケーションの手段です。人と人とが理解し合い、人が社会と繋がり貢献していくためには、より豊かな言語力や表現力を身に付けることが大切です。読書によって、コミュニケーション能力や社会性、共感性等、他者と関わるための能力が育つほか、自分自身の興味関心や意欲の広がり、心理的な安定等にも影響します。

(3) 自立する力の育成

本を読むことで、言葉を理解し使用する力や情報を処理し活用する力が身に付きます。未来を担う子どもの一人一人が自立するため、新たな創造性や理解力、応用力、編集力を生み出し、困難や問題を解決する判断力や洞察力を培います。

3 第1次伊勢原市子ども読書活動推進指針の評価と課題

(1) 目標の達成状況

実施内容	対 象	当初値 (平成25年度)	目標値 (平成29年度)	現状値 (平成28年度)
ブックスタート提供率	7カ月児と その保護者	90%	95%	96%

●達成状況：目標値を達成できる見込みである。

●今後の方針等：今後も継続して事業を実施する。

実施内容	対 象	当初値 (平成25年度)	目標値 (平成29年度)	現状値 (平成28年度)
学校図書館の 図書標準達成率	市内小学校	84%	100%	91%
	市内中学校	70%	85%	81%

●達成状況：目標値には達しない見込みだが達成率は高まっている。

●今後の方針等：今後も目標値の達成に向けて計画的に図書を購入していく。

実施内容	対 象	当初値 (平成25年度)	目標値 (平成29年度)	現状値 (平成28年度)
児童図書利用冊数 (18歳以下の利用者が 借りた本の冊数)	市立図書館 児童利用者	1人3冊 ／月	1人5冊 ／月	1人5冊 ／月

●達成状況：目標値を達成できる見込みである。

●今後の方針等：中高生向けの読書活動に力を入れながら、今後も、継続して事業を実施する。

(2) 取組の概要

「本との『出会い』で豊かな心を育てよう」を基本理念とし、「啓発事業の充実」「人材育成の支援」「読書環境の整備」「情報・交流の促進」を施策・事業の推進のための4つ方向性として掲げて、子どもへの読書普及に取り組みました。

乳児期の子どもへの読み聞かせとして有効な7ヶ月児と保護者にブックスタートを実施し、乳児と本との出会いを推進しました。学校では読書の習慣化につながる朝読書や読み聞かせに市民ボランティアを活用し、地域と学校の連携が強化されました。なお、毎年市が主催する読書感想文コンクールは、子どもの国語力と表現力を高める機会となっています。図書館では、ぬいぐるみ図書館員等の人気事業を行い、読書手帳のリニューアルや、新たな試みとして読書マラソンを開催する等、読書を始めるきっかけ作りや読書意欲の向上につながる様々な事業に取り組みました。また、まちづくり市民ファンド寄附金を活用して「こみち文庫」を開設し、子どもが成長段階に応じた本と出会える環境を整備しました。

(3) 施策・事業推進の方向性ごとの評価と課題

啓発事業の充実

子どもの活字離れが危惧される中、7ヶ月児と保護者を対象としたブックスタートや学校での朝読書を通しての読書の習慣化を図り、図書館では、年間100回を超える絵本の読み聞かせおはなし会等、子どもたちの「本との出会い」を促進するために様々な活動を行ってきました。こうした啓発事業は継続して行うことが重要であり、そのための環境整備や人材の確保・育成・支援の必要性や重要性についても再認識することができました。

また、次世代を担う子どもたちに、郷土に愛着を持ってもらえるよう、郷土の資料の収集や提供の充実を図るとともに、郷土を知る機会を提供し、郷土愛の醸成を図る必要があると感じています。

人材育成の支援

図書館では、市民ボランティアによる年間を通じたおはなし会の実施、事業のサポートや特集架の設置等様々な活動の中で、市とボランティアとが協働しています。ボランティアの育成・支援講座や、保護者向けに読書講座等の様々な講座を開催することは、市が進める読書普及活動の理解や実施には欠かせないことです。また、研究者や作家の講演会等を実施し、保護者やボランティアの学ぶ場を提供することも、各々のモチベーションを上げ、ひいては子どもたちのより良い読書活動を支える人材を確保することに繋がっています。

今後も、子ども読書活動を更に推進するためには、ボランティアの存在は不可欠であり、継続してボランティアの育成・支援を行う必要性を強く感じています。

読書環境の整備

図書館では、まちづくり市民ファンド寄附金を活用した『こみち文庫』を開設し、指針に掲げる「子どもの成長段階に応じた本と出会う」ことをコンセプトに書架づくりを行いました。

学校図書館では、子どもたちの読書意欲を高めることを意識した図書を選定・購入を計画的に実施し、各校に図書整備員を派遣して学校図書館の環境整備を図りました。子育て支援センターでは、図書館からのリサイクル児童図書を配置する等、子どもたちに身近な場所での読書普及を行いました。

子どもが本と出会うための環境整備を進めましたが、今後も継続して行う必要性を感じています。また、学校図書館への学校司書配置や蔵書検索システムの導入、図書館でのヤングアダルトサービスの充実、そして、子どものための郷土資料の整備が課題です。

情報・交流の促進

子育ての中での支援、学校教育や社会教育での支援等、各機関による子ども読書活動の支援事業は、様々な場所や地域でそれぞれの計画の中で適正に実施されてきました。そうした中で、多くの市民ボランティアや団体等の情報交換や交流の場を整える取り組みを行ってきましたが、ボランティアの更なる意欲向上やスキルアップに寄与するボランティア同士の連携強化は、今後も継続して実施すべきと考えます。

各関係機関相互の協働や支援を通じたネットワークを広げ、さらに充実した家庭や子どもへの読書普及活動への支援のための人材の把握、交流の促進等が課題です。

(4) 第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針に向けて

「第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針」では、第1次指針で実施してきた「啓発事業の充実」「人材育成の支援」「読書環境の整備」を継続し、更に強化していきます。それらの施策のほか、ボランティアや関係機関等が「連携・交流の推進」を図り、また子どもたちが自分が生まれ育った郷土に興味を持ち、知ることによって愛着を持ってもらえるよう、「郷土愛の醸成」を5つ目の施策として、子どもたちに「ふるさと伊勢原」を知ってもらうための環境や人材の育成等にも取り組んでいきます。



4 子ども読書活動推進の体系図

基本理念

本との『出会い』で豊かな心を育てよう！

子どもたちの年齢や成長にあった形での「本との出会い」を提供し、読書普及を行うことで、子どもの豊かな心を育むことを目標とする。

重点取組

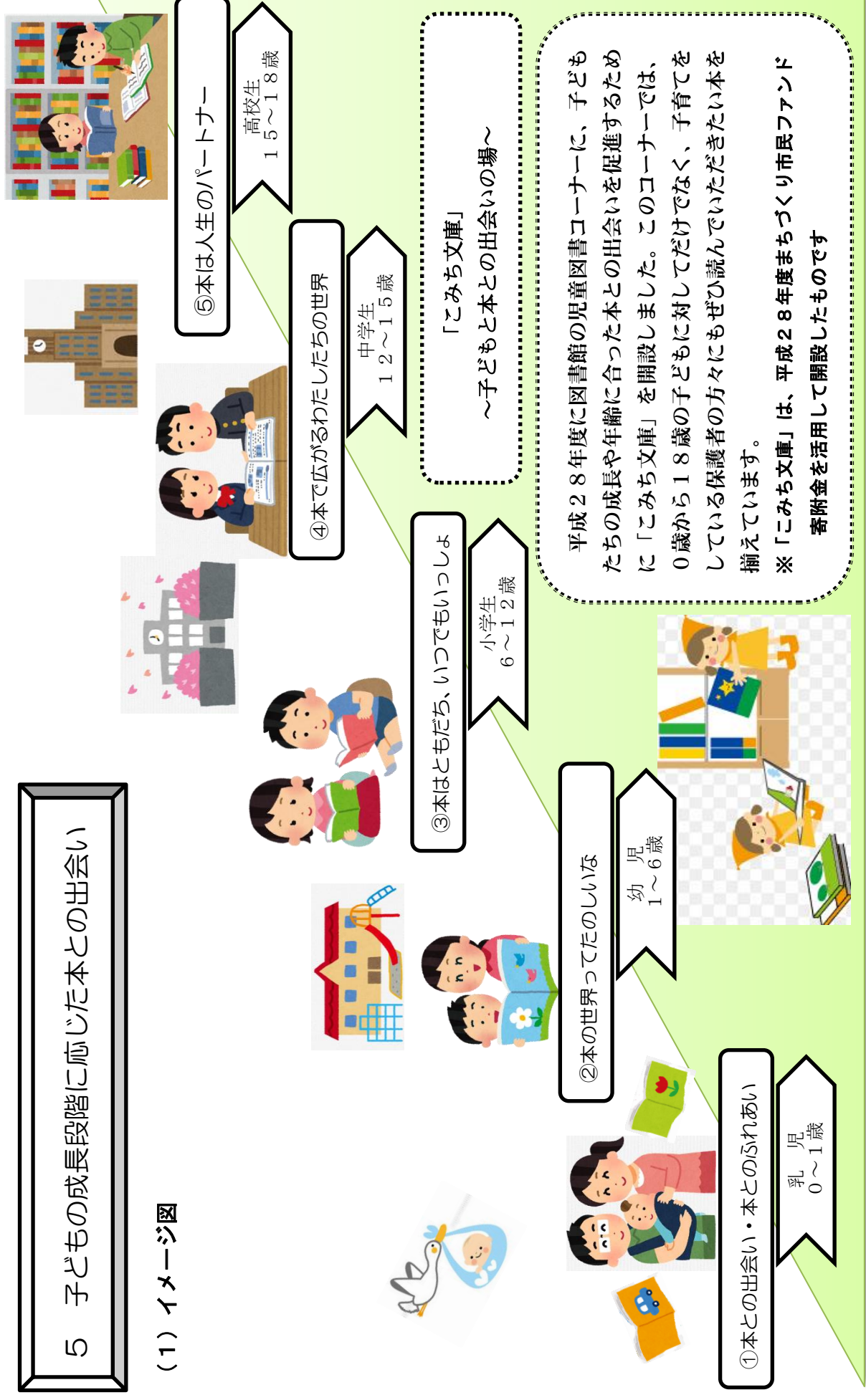
- ① 子どもの成長に合わせた読書普及を実施する。
- ② 家庭・地域・学校等の教育機関・行政・図書館の読書普及活動に連携性を持たせ、活動や情報を共有できるネットワークの強化を図る。

施策・事業推進の5つの柱

啓発事業の充実	読書活動を盛んにするため、図書に関連した講演会や展示等の事業を行う
人材育成の支援	図書館の事業に欠かせないボランティア等の人材を育成するための支援をする
読書環境の整備	子どもが読書しやすくするため、図書館や学校、市内施設等の関係機関において、本を読むための環境を整える
連携・交流の推進	ボランティアや関係機関の交流や情報交換を促進し、活動を盛んにする
郷土愛の醸成	郷土を身近に感じられる機会や、郷土資料の収集・提供を充実する

5 子どもの成長段階に応じた本との出会い

(1) イメージ図



(2) 各成長段階のねらい



0～1歳 乳児 本との出会い・本とのふれあい

赤ちゃんは本を読みません。読まずに「感じ」ます。

パパやママが読む絵本。赤ちゃんは物語よりも「声」を聞いています。

赤ちゃんの大好きな声で、読み聞かせやわらべうたをいっぱい一緒に楽しんであげてください。赤ちゃんは、ちゃんと見ているし聞いています。

1～6歳 幼児 本の世界ってたのしいな

早くから「文字」を読めたり書けたりする子がいても、幼児が本の世界を楽しむ時は「読んでもらう」のが一番です。

子どもは「ごっこあそび」が大好き。本の世界でも、自分に一番近い登場人物に感情移入し、そして一緒に物語の中を旅し冒険する。物語に集中したいのです。

同じ本ばかり読む子がいたら、その本と一緒に大事にしてあげてください。

繰り返すことで安心し、満足し、自分の世界を作る喜びを覚えるのです。

6～12歳 小学生 本はともだち、いつでもいっしょ



小学生になると「言葉」の吸収力がどんどん増してきます。本を「聞く」楽しみを知っている子には、もっともっと読み聞かせをしてあげてください。きちんと話を聞けることはとても大切なことです。人は「聞く」ことで多くを学びます。

自分で本を読みたい子には時間をあげてください。自分のペースで、自分の好きな世界と関わる手段を身に付けるために。

12～15歳 中学生 本で広がるわたしたちの世界

中学生になると子どもはますます忙しくなります。読書の暇などないという話もよく聞きます。でも同時に、「読み解く力」を養うとても大切な時期でもあるのです。中学生は、人に勧められた本をいろいろ読んでみてください。今まで知らなかったいろいろなことを知るチャンスです。そして、自分が知っている以外にも、様々な立場、考え、感情、生き方があることを知ったとき、世界はもっと広がります。

15～18歳 高校生 本は人生のパートナー

高校生になると自分の好みもはっきりしてきて、先を考えるようにもなります。

子どもの時から本によって培った「聞く」「読む」力で、自分の考えを人に「話し」意見を出し合う楽しさを知る。読書は時に娯楽であり、知識・情報の収集であり、他者との対話であり、疑似体験でもあります。他者を理解する心や多角的な視点で物事を捉える目を養うことは、自己を形成していく中でとても貴重な財産になります。



6 子ども読書活動の推進

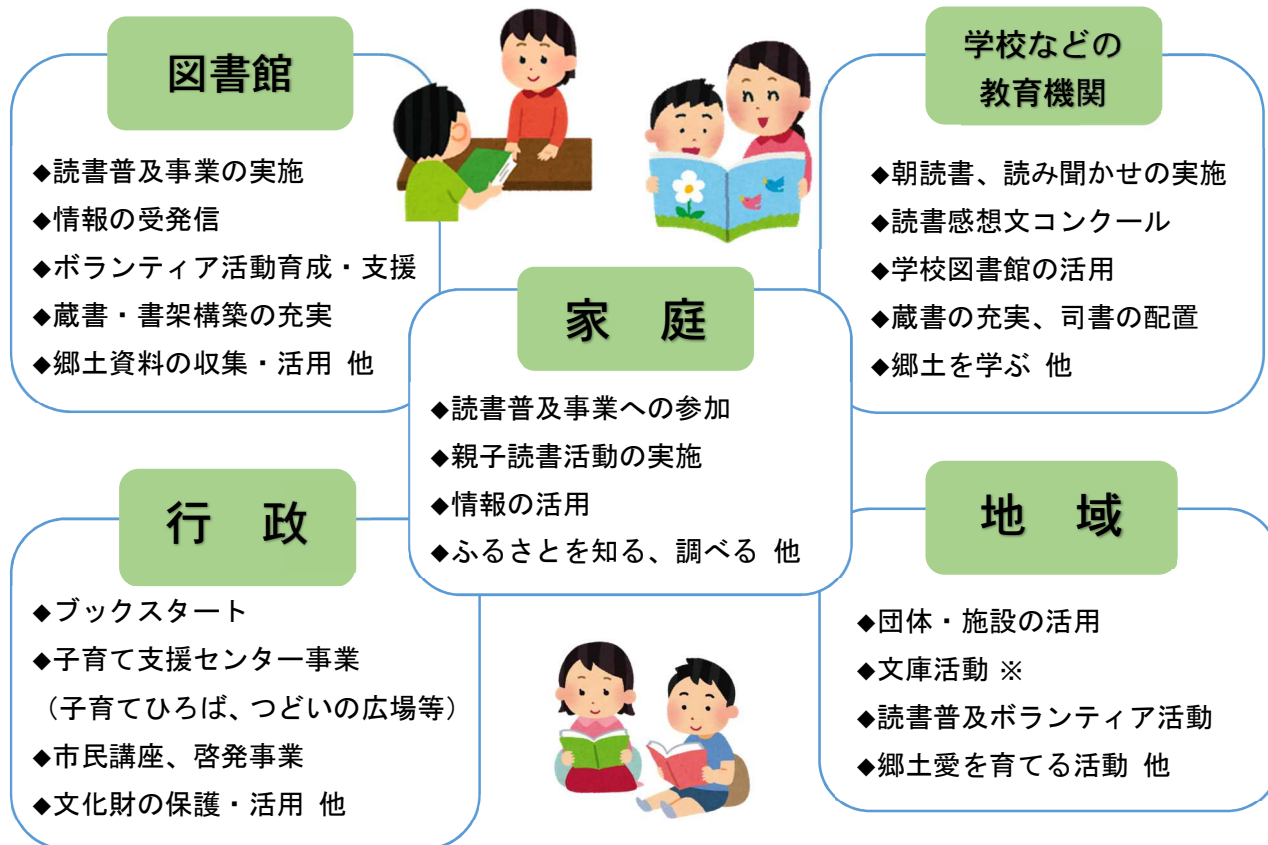
(1) 目標値の設定

実施内容	対象	現状値(平成28年度)	目標値(平成34年度)
学校図書館の図書標準達成率	市内小学校	91%	100%
	市内中学校	81%	90%

実施内容	対象	現状値(平成28年度)	目標値(平成34年度)
市立図書館読書普及活動ボランティアの新規育成人数	市民・ボランティア等	—	25人

実施内容	対象	現状値(平成28年度)	目標値(平成34年度)
児童等の図書利用冊数 (児童等とは、18歳以下の利用者をいう。)	市立図書館 児童等	1人5冊/月	1人7冊/月

(2) 主な事業とネットワーク体制



※地域施設等でまとめて本を借り、貸出サービスを展開する活動

第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針

平成30年3月

〈編集・発行〉 伊勢原市・伊勢原市教育委員会
図書館・子ども科学館

〒259-1142 神奈川県伊勢原市田中76番地

電話 (0463) 92-3500

伊勢原市HP : <http://www.city.isehara.kanagawa.jp/>

伊勢原市立図書館HP : <http://www.lib-isehara.jp/>